

Brown Bag Seminar

No. 066

オンライン
録画期間限定公開
(Zoom)
登録はこちら



2022 **9.21** 12:10
(水) 12:50

- 12:10-12:15 ◆ 演者紹介
- 12:15-12:40 ◆ プレゼン
- 12:40-12:50 ◆ 質疑応答

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_7SCFUPLJTq2gSYeTLQfj_w

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

アリの音声コミュニケーション研究が開く 持続可能な社会

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

村上 貴弘 准教授

持続可能な社会のための決断科学センター



アリがおしゃべりなのを知っているだろうか？ 2014年からアリの音声コミュニケーション研究を始め、ようやくアリ語の持つ謎を解き明かす入り口に立てた。研究対象種は中南米に生息するハキリアリを中心とした菌食アリだ。このアリは、巣の中でキノコを栽培する「農業をする」アリだ。我々の研究チームは、独自に高精度の小型録音装置を開発し、アリの音声を精密に録音することに成功した。また、電子顕微鏡を用いて発音器官の構造解析、フェロモン阻害群と音声阻害群を作出した操作実験、そして免疫染色による聴覚器官の探索を行った。その興味深い結果について解説する。これらの研究成果は今後様々な分野に応用可能である。

神奈川県出身、最終学歴は北海道大学、博士(地球環境科学)、修了年は1998年。主な職歴はテキサス大学・カンザス大学での日本学術振興会海外特別研究員、北海道教育大学准教授など。1993年から現在まで延べ11回、約11ヶ月間をパナマ共和国のパロコロラド島で過ごす。1999-2003年までテキサス大学とカンザス大学でハキリアリの研究を行なった。主な研究テーマは、菌と共生する「農業をする」アリの行動生態、進化生態学、アリの音声コミュニケーション、ヒアリ・アルゼンチンアリなどの侵略的外来生物の防除などである。近著は「アリ語で寝言を言いました」(扶桑社新書)。

Key Words

アリ語

アリの音声コミュニケーション